

性教育に対する意識調査の考察

—— “性教育シリーズ” <そのⅦ> ——

小林 壽子・大西真由実

Survey of Consciousness on Sex Education

—— “A Series of Sex Education” <part seven> ——

Hisako KOBAYASHI and Mayumi ONISHI

It is 50 years since public sex education was adopted in Japan. Since then, remarkable and sometimes worrying changes have occurred in the attitudes of young people, particularly young women. This study reports our investigation of opinions among students from the third year of junior high school to the second year of junior college. These results will be a basis for future guidance.

- 1) To what extent do you think sexual intercourse may be permitted in dating?
As a part of preserving friendship, it is permissible. …53.8%
- 2) As to the guidance of prevention of pregnancy, active instruction should be promoted. …57.2%
- 3) Concerning artificial abortion, it should be permitted when there exists social or economic reason. …57.8% for senior high school students.

I はじめに

第2次世界大戦後の日本の性教育を考えれば、昭和21年11月に文部省・法務省・厚生省等の関係省庁の事務次官会議の結果、「私娼の取締り並びに発生の防止及び保護対策」について総合的対策を審議した結果の決定に基づいて文部省は昭和22年1月6日に社会教育局長から都道府県に対し「純潔教育の実施について」を通達し各地の事情に応じた具体策の企画と実施を要請した。これがわが国での性教育を公的立場から取り上げた最初である。

その時から50年経た日本の現実には想像もつかないほど、いたる処での変貌振りである。高齢化、少子化が急速に進み、個人の価値観や多様な生き方を認め合う社会と変わってきた面は評価できるが、公衆の面前であっても若者の行動には、周囲への配慮を欠く行為を目にする事が多い。長年性教育に携わっている者として、真に若者達が自分自身の人間としての生き方を考えた結果の性行動であるのか気にかかるところである。

そこで今回、暫くぶりに高校3年生から短大2年生までの学生に対して、先ず、意識調査を実施し、その結果から性教育の在り方を検討することとした。

II 調査方法

II・1 対象

平成9年6月 三重県A短期大学（2年生60名、内、男子2名）

平成9年6月 三重県A短期大学（1年生85名、内、男子5名）

平成9年6月 三重県B高等学校（3年生147名、女子のみ）

平成7年7月 三重県C小学校（5年生の保護者93名、父親7名母親86名）

II・2 方法

短大生は養護教諭及び福祉関係の進路を目指している学生であり、高校生は進学校の生徒である。小学校は県庁所在地に在住する保護者である。全て質問紙方法による記入であり、回答方法は幾つかの選択肢より1つを選ぶが、1項目のみ1、2の順で選択、その他は自由記述として回答を得た。

III 調査結果

質問項目の(1)「性教育とはどんな教育だと考えますか」に対し、対象者の全てで「男女の性の特徴を理解させ、人間関係の在り方を指導する」が最も多かった。(表参照、以下同じ)

(2)「学校で性教育を行う場合、主に誰が指導すべきだと思いますか」は短大生は養護教諭、高校生は保健体育科教諭と回答した。

(3)「中高生の異性との人間関係について、この状態までは許しても良いと思うか」については、程度に関係なく自由につきあえばよいが対象者の半数を越え、その平均は53.8%であった。

(4)「今、性の自由化が進んでいますが、その事についてどう思いますか」を1、2の順で回答を得た結果は、短大生は1に「性の教育とともにもっと愛とは何かを考えさせるべきだ」が36.7、25.9%であり、自由化は止まらないと思う。各自の自律的なモラルでの行動に期待する」が続き、30.0、37.6%であった。

(5)「性交をもつこと」については、交際が進み愛情が深まればよい」が最も多く、特に短大2年生は55.0%と半数を越え、保護者も32.2%であった。

(6)「中高生が性交をもつこと」については本人が納得しているのなら他からとやかく言う必要はない」が全ての対象者で多いが、短大2年生は10%ほど他よりも少なかった。

(7)「中高生への避妊指導」については、積極的に指導すべきがどの対象者も多く平均で57.2%であった。

- (8)「人工妊娠中絶に対して」は社会的、経済的理由があれば中絶をしてもよいが短大生の平均で44.9%に対し高校生では57.8%と高かった。
- (9)「離婚観について」は「離婚によって幸せになる見通しがあるならば、離婚もよい」が短大1年高校生に最も多くそれぞれ49.4, 45.6%であったが、短大2年は「事情によっては離婚するのもやむを得ない」が41.7%であった。
- (10)「性教育の必要な理由」では「氾濫する性情報の中で正しい性知識を」が平均38.6%であったが、高校生は男女の相互理解と尊重が、42.2%であった。
- (11)「性教育実施の必要条件」では「教育課程に位置づける」,「養護教諭と学級担任との協力」が多く、(12)「これからの性教育の実践について」積極的に取り組むべきが平均で55.2%と高く、(13)「大学教育（教員養成）での性教育の授業の履修の必要性」では、52.5%が必要と回答した。
- 以下に性教育に対する意識調査の集計結果を記す。

《性教育に対する意識調査の集計結果》

日 時 平成9年6月実施

対 象 短大2年 60名（男子2名, 女子57名）
 短大1年 85名（男子5名, 女子78名）
 高校3年 147名（女子147名）

※以下の数値は%とする。また、網掛けは各質問に対して最も多い割合の数値である。

(1) 性教育とは

選 択 肢	短大2年	短大1年	高校3年
1. 性解放の風潮の中で、乱れようとする性を正しく指導し、貞操を守らせるよう指導する	6.7	12.9	8.2
2. 男女の性の違いを指導して、性的な非行を防止するため指導する	15.0	29.4	8.2
3. 男女の性の特徴を理解させ、人間関係の在り方を指導する	60.0	41.2	64.6
4. 生理的な知識を与え、将来困ることのないよう指導する	8.3	12.9	15.6
5. わからない	10.0	2.4	2.0
6. その他	0.0	0.0	1.4

保護者の意見で最も多い割合を占めた選択肢…3…68.3%

(2) 学校で性教育を行う場合、主に誰が指導すべきか

選 択 肢	短大2年	短大1年	高校3年
1. 学級担任	18.3	8.2	1.4
2. 保健主事	1.7	3.5	19.0
3. 保健体育科教諭	11.7	17.6	28.6
4. 理科教諭	0.0	0.0	0.0
5. 家庭科教諭	0.0	0.0	4.8
6. 社会科教諭	0.0	0.0	0.7
7. 同性の教諭	11.7	12.9	11.6
8. 養護教諭	38.3	44.7	17.0
9. 校医	1.7	5.9	2.0
10. 外来講師	11.7	5.9	12.2
11. その他	5.0	0.0	2.7

(3) 中高校生の異性との人間関係について、この状態までは許しても良いだろうと思う番号を1つ選択

選 択 肢	短大2年	短大1年	高校3年
1. 友情を感じる程度	1.7	1.2	0.7
2. 好意を持ち、愛情を感じる程度	15.0	17.6	10.2
3. 恋愛状態で、プラトニックなもの	13.3	12.9	16.3
4. 恋愛状態で、キス以上	5.0	8.2	6.8
5. 程度に関係なく、自由につきあえばよい	53.3	52.9	55.1
6. わからない	8.3	5.9	9.5

- (4) 今の性の自由化についてどう思うか。選択肢から2つ選んで、強く思う方から1, 2の順で選択

選 択 肢	1			2		
	短大2年	短大1年	高校3年	短大2年	短大1年	高校3年
1. このまま自由化が進んで特に問題はない	5.0	3.5	1.4	5.0	3.5	2.8
2. 青少年に対して何らかの規範を強めるべき	5.0	15.3	3.5	13.3	8.2	11.8
3. 性の教育とともにもっと愛とは何かを考えさせるべき	36.7	25.9	29.2	16.7	16.5	19.4
4. 性風俗営業や性の情報の行き過ぎをもっと規制すべき	15.0	25.9	28.5	26.7	25.9	31.3
5. 各自の自律的なモラルでの行動を期待する	31.7	25.9	37.5	30.0	37.6	30.6
6. その他	3.3	0.0	0.0	1.7	3.5	3.5

<その他の意見>

【短大2年】

その他を1位とした者の考え

- ①. 性の原点である生命の誕生から命の尊さを知り、いじめ等についてもいえる人(命)を大事にするということを理解する。

【短大1年】

- ①. 本人たちの意識の問題であり、行き過ぎのないように注意する程度でよいと思う。

- (5) 性交についてはどのように考えるか

選 択 肢	短大2年	短大1年	高校3年
1. 結婚、婚約をするまではもたない方がよい	3.3	12.9	14.3
2. 交際が進み、愛情が深まればよい	55.0	47.1	49.7
3. 機会があればよい	3.3	2.4	1.4
4. 他人に迷惑をかけなければよい	16.7	15.3	12.9
5. 避妊をしていけばよい	5.0	10.6	8.8
6. あまり考えたことがない	15.0	10.6	12.9

保護者の意見で最も多い割合を占めた選択肢…2…32.2%

(6) 中高校生が性交をもつことについて、どのように考えるか

選 択 肢	短大2年	短大1年	高校3年
1. 絶対よくない	1.7	5.9	6.8
2. 自分とは関係ないので別に気にしない	1.7	3.5	6.8
3. 現代社会の性の自由化がそうさせるのだから、まず社会から正すべきである	15.0	9.4	6.1
4. 本人が納得しているのなら、他からとやかく言う必要はない	36.7	45.9	45.6
5. 価値観が違うのだから仕方がない	13.3	5.9	13.6
6. 人生観に関する指導が不十分だからであり、家庭教育を含めて教育に責任があるように思う	15.0	9.4	6.1
7. 経験の1つとして考えるので、中高校生でも問題はない	3.3	11.8	7.5
8. わからない	3.3	5.9	4.1
9. その他	8.3	1.2	3.4

<その他の意見>

【短大2年】

- ①. 責任をとれるようになってから。
- ②. 遊び感覚、金目当てで行われていることがすごくこわい。
- ③. お互いが愛し合い、避妊をきちんとして、自分達の行動に責任をもった上で行うならば良いが、自分の責任を持たず愛のない性交はダメ。
- ④. あまりよいとは思えないが、他人に迷惑をかけず、自分で自分を守るという意志、相手が誰でも良いという無責任さがなければ良いと思うが、少し早いのではと思う。

(7) 中高校生への避妊指導についてどのように考えるか

選 択 肢	短大2年	短大1年	高校3年
1. 積極的に指導すべきである	58.3	57.6	55.8
2. 最小限度は指導すべきである	38.3	37.6	42.9
3. 指導しなくてもよい	0.0	0.0	0.7
4. わからない	1.7	3.5	0.7

(8) 人工妊娠中絶に対してどのように考えるか

選 択 肢	短大2年	短大1年	高校3年
1. 医学的理由がないかぎり, 生むべきである	26.7	35.3	9.5
2. 社会的, 経済的理由があれば中絶してもよい	45.0	44.7	57.8
3. 計画外の妊娠であれば中絶してもよい	6.7	4.7	6.8
4. わからない	18.3	14.1	25.9

(9) 離婚観について

選 択 肢	短大2年	短大1年	高校3年
1. 離婚は絶対しない方がよい	6.7	1.2	4.1
2. 子どもの事を考えて離婚しない方がよい	15.0	11.8	10.2
3. 事情によっては離婚するのはやむをえない	41.7	34.1	38.1
4. 離婚によって幸せになる見通しがあるならば, よい	26.7	49.4	45.6
5. わからない	8.3	2.4	2.0

(10) 性教育の必要な理由

選 択 肢	短大2年	短大1年	高校3年
1. 男女の相互理解と尊重のため	25.0	34.1	42.2
2. 氾濫する性情報の中で正しい性知識を与えるため	38.3	38.8	39.5
3. 生命の尊さを教えるため	33.3	25.9	15.0
4. その他	1.7	0.0	2.0

保護者の意見で最も多い割合を占めた選択肢…2…37.6%

(1) 性教育実施のための必要条件について

選 択 肢	短大2年	短大1年	高校3年
1. 教材・資料の整備充実	8.3	17.6	19.0
2. 養護教諭と学級担任との協力	25.0	15.3	7.5
3. 教育課程に位置づける	15.0	27.1	28.6
4. 性教育の研修会を持つ	8.3	7.1	6.1
5. 家庭・地域・学校との協力	23.3	21.2	17.0
6. 国による指導基準の提示	5.0	4.7	9.5
7. 性教育の研究組織の設置	6.7	1.2	5.4
8. その他	6.7	1.2	6.1

(2) これからの性教育の実践

選 択 肢	短大2年	短大1年	高校3年
1. 積極的に取り組むべきである	56.7	60.0	49.0
2. 最小限度は取り組むべきである	40.0	36.5	48.3
3. 取り組まなくてもよい	0.0	1.2	1.4
4. その他	1.7	1.2	0.7

(3) 大学教育（教員養成）における性教育の授業の履修の必要性について

選 択 肢	短大2年	短大1年	高校3年
1. 絶対に必要である	21.7	15.3	8.2
2. 必要である	46.7	51.8	59.2
3. あまり必要でない	10.0	16.5	10.2
4. どちらともいえない	18.3	15.3	21.1

(4) 性教育に関する意見・考え（自由記述）

【短大2年】

- ①. もっと堂々で行うべきでは？
- ②. 人工妊娠中絶という事がどんな事かをもっとよく理解させその上で避妊方法を詳しく説明する必要があると思う。

- ③. 性教育の研修会を開いてほしい。養護教諭だけでなく自由参加にしてはどうだろうか。
- ④. 様々な意見・考え方があると思うが、教師や家庭など、両親、大人でも性への知識をきちんと持っていない人も多いのではないだろうか。次の世代、子ども達へ教えていく立場の人がもっと性への知識を持つべきではないだろうか。
- ⑤. ちゃんとした知識が必要である。(2名)
- ⑥. 実際に中学生で関係をもつことが日常の中に入り込んでいるように思います。たぶん正しい知識も知らずに自由に行動した結果なのではと思う。学校というよりも子どもの回りの家庭、とくに親がきちんと話をするべきだと思う。
- ⑦. 性教育の分野自体、どこからどこまで教えて良いものかとかはっきりしたものがない為、行き過ぎているように感じることもある。
- ⑧. 小さい時から正しい知識をつけさせるべきだと養護実習に行っていた。
- ⑨. テレビを見ていると中高生が見るテレビドラマ等に必ず1回は売春やsexについてのものが流れる。何事に対しても簡単に出来てしまうという考えがある為で、それをなおすべきである。

【短大1年】

- ①. 10代で子供を生む人の考えがわからない。
- ②. 今更遅いという感じがある。もっと早くから性教育が必要、中学へ入ったら直ぐ。
- ③. 性交は本人が納得しているならよいと思う。周りから“絶対だめだ”と決めつけるのはよくない。本人の考えにまかせるべきだ。
- ④. 性交をした事がないと“おくれてる”と思う中高生に、それは違うと教えた。
- ⑤. AIDSなどの問題があるので正しい避妊の方法だけはしっかり教えるべきである。
- ⑥. 現代では若い人は動物にしか思えない人が多いと思う。「お金がいるから」「ただやりたいから」そんなことでいいのかと何故気付かないか不思議である。私一人がどんな意見を持ってしようと、世の中を変えることは出来ないが、何故今こんなに性に関して乱れた状態になっているのかわからない。「誰かなんとかして下さい」というのが正直な気持ちです。
- ⑦. 小学生の性教育については、学校よりもまず家庭で性教育をしてから学校で全体的に性教育をすべきだと思う。大部分の家庭ではそれまで性教育に対して、うやむやにされていたぶん学校でのいきなりの性教育は子供にとって精神的なショックが大きいと思うからだ。
- ⑧. 性教育は行って当たり前のことだから、もっと積極的に教育していけばいいと思う。
- ⑨. 今、高校生や中学生の性行為が自由に行われているが、何かきっかけがあったと思う。親の愛情が感じられないと、こういった行為にいつてしまうのではないだろうか。
- ⑩. 何度か絶対という言葉が出てくるが、世の中に絶対ということはないのではないだろうか。他の言葉を考えるべきだと思います。

- ⑪. 性関係をもって子供ができてしまった時、痛い目にあうのは女だから中絶のこわさをちゃんと教えるべきだし、男は女の体にどれだけ負担がかかるかを知れば、愛している相手に無理なことをせず、避妊対策にもなると思うので、男女とも性的なことはしっかり教えるべきだと思う。
- ⑫. 正しい知識を身につけたらそれでよし。

Ⅳ 考 察

今回の意識調査によって考えられることは、①性教育を男女の性の特質と理解し人間関係の在り方を考える、と理解しながらも②中高生の異性との人間関係において、程度に関係なく自由に、各自の自律的なモラルである、③性交についても本人が納得しているなら他から言う必要はない、④人工妊娠中絶、離婚についても理由があればそれらを見とめる、⑤しかし性教育は学校においても積極的に行い、避妊指導も行うべき等の考えが前面に出てきていた。しかしながら、彼等の中にも、①「愛」とは何かを考えさせるべき、②性交をもつことを人と遅れないようにと考えるならば、それは間違っていると教えるべきである、③学校での性教育の前に家庭で特に親がきちんと話すべき、④正しい知識をつけさせるべきだ、⑤中高生を見るテレビドラマに売春やsexについてのものが流れている、何事に対しても簡単に出来てしまうという考えがある為でそれをなおすべきだ、との意見もみられた。

Ⅴ おわりに

保護者も交えた高校3年生から短大2年生までの意識調査から考えられる事は、先ず家庭で親が正しく、きちんとそれぞれの成長過程をとらえて話すべきであり、その上で学校においても教育課程の中に組み入れることが必要であると考えます。

現在の日本の若者たちの意識と生活の実態は大きく変貌してきている。例えば東京都内の高校3年生女子のセックス体験率が「3人に1人」とこの3年間で急激に上昇している。これまで高めだった男子の体験率を、女子が全学年で一斉に上回った²⁾。これは何も驚くことではないようだ。この2～3年で女子がぱっと変わった感じだからと都立高校教師も言っている。高校3年生までのセックス体験率は女子34.0%、男子28.6%、その差5.4ポイントであり、これは女子の12年前に比べると、ほぼ3倍になり、今回初めて全学年で男子を上回った。

「好きになったからセックスをした」「嫌いになったら別れるだけ。割り切っている。」などと言っている。教室内で、前日の性体験を話し合うこともあるという。

大きく変貌したのはこれだけではない。最近、文部省が青少年による薬物乱用が社会問題化する中で、初めて小・中・高校の約78000人を対象にした意識調査の結果を発表した。それによると「絶対に使うべきではない」と回答する率は年齢が高くなるにつれて低下、高校2・3

年の男子の15%は「個人の自由」と回答した。文部省は「他人に迷惑をかけなければ何をやってもいい」という社会風潮にも問題がある。「地道に指導を続けていかなければ取り返しがつかなくなる」と危機感を強めている³⁾。今回実施した内容は、性教育についての指導者の特定や、性行動についての意識を中心に質問紙法によって行った。このことから先に述べた東京都内の実態や、文部省の薬物に対する意識調査等と重ねて検討するならば、近い将来に「性行動の実態」を把握する必要を強く感じている。しかしながら、今回の意識調査の結果からも見えているように、早急に指導体制を整えていく必要を感じる。それは家庭と学校との連携の上に立って、小学校低学年から自分自身を大切に考え、同じように相手を思いやるやさしい温かな、豊かな心を育める指導を行うことであり、それによって自律と自立が真に出来るそのような子どもたちの育成を社会全体で本気で考え、取り組んでいくことが必要であると、改めて考える次第である。

参考文献

- 1) 改訂性教育指導要領解説書 日本性教育協会編 小学館発行 1984年
- 2) 読売新聞 1996年10月9日
- 3) 中日新聞朝刊 1997年10月14日